

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【窪田小学校】

＜第5学年：もち米作り大作戦＞

今年度もまず、「もち米づくり実行委員会」を開催し、地域・学校コーディネーターをはじめとする地域の協力者と、実施に向けての協議を行った。例年通り、田植えは、田の半分を機械、半分を手植えで行い、稲刈りは、去年と同じく、1組、2組の刈り取る領域で行うことを確認した。

児童たちは田植えに向けて、地域の方にお借りしている水田の石拾いから活動を開始した。田植え当日は、最初に地域の方のお話をいただき、上手に植えるコツを学んだ。その後、泥に足を取られながらも一生懸命に植えていた。稲刈りでは、みるみるうちにのこぎり鎌の使い方に慣れ、どの児童も楽しそうに収穫していた。稲刈り実施後の児童の感想には、これまでの学習を通して、米作りに関する数々の工夫のすばらしさや農家の方の苦勞に気付いたことや、食べ物を作るといふ営みの大切さにまで思いが広がったということが書かれていた。

その後、学年全体で話し合っ、収穫できたもち米をお世話になった地域の方々へ配ることとなった。自分たちのもち米を「窪ひかり」と名付け、かわいらしい銘柄のシールや感謝の手紙を準備し、計量したもち米を米袋へ詰め、地域の方やPTAの方へプレゼントすることができた。手渡すときの児童たちの笑顔からは、一連の活動に対する達成感が強く感じられた。



＜第3学年：すてきです くぼ田＞

まずは、お話を聞き、地域の方から窪田小校区の歴史や伝統、文化、行事などの話を聞いたり、地域の人に質問したりすることで、窪田の町の「すてき」を見付ける探究活動を開始した。

その後、児童たちは、保護者や地域の方の協力を得て、実際に校区内の仏閣や神社に出向き、そこに伝わる伝統芸能など様々な体験をさせてもらうとともに、そこに住む人々の地域に対する思いを聞いたりした。これらの活動を通じて、児童たちは、窪田地区の人々が故郷をどれほど大切に思っているかを知り、強く心が動かされたようであった。続いての報告会では、見つけた「すてき」について学年全体で共有し合うとともに、休み時間等を活用して、他学年にも情報発信を行うなど、他に伝える活動を通じて、多くの地域のよさを再発見することができていた。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【窪田小学校】

<第6学年：大好き 久米 ～埴輪作り～>

児童たちは、埴輪の製作に向けて、まず、久米の歴史について学び、埴輪作りは久米地区の6年生が伝統に行っている活動であることや、地域の方々が埴輪作りのために計画を立て準備をしてくださっていることを知った。その後、二人組を作り、思いのこもった自分たちオリジナルの埴輪を作ろうという気持ちを高め、下絵を考えるなどの準備が始まった。

地域・学校コーディネーターの御協力の下、久米公民館と日程を調整した上で、7月9日～12日に図工室において埴輪を製作した。地域の方には、事前に道具・粘土搬入、道具の準備を、当日は久米の埴輪作りの歴史や作り方の説明をしていただいた。例年通り、各学級二日ずつの作業日程で、1日目は、埴輪の製作中心に3時間、2日目は芯から粘土を外す作業を2時間行った。全行程を、多くの地域の方々に協力していただきながら進めることができたおかげで、無事、個性あふれる楽しい埴輪の数々が完成した。

埴輪の里山設置に向けても、事前に地域の方が設置場所の草刈りやくい打ちをしていただいております。出来上がった埴輪も焼成し、丁寧に運んでいただいた。当日児童たちは、説明を受けた後、先輩たちの埴輪の横に順次設置を行い満足気であった。改めて地域の方々に感謝するとともに、自分の住む地域を大切にしていこうという思いを強くしたようであった。最後に、久米小学校の6年生と和やかな雰囲気での交流会を行い、中学校での再会を約束し、進学へ向けての意識を高めることができた。



<第4学年：窪田みんなに優しい町プロジェクトⅡ～>

松山市社会福祉協議会の方にお世話になり、「CIL 星空」の障がいのある方を講師に迎え、話を聞くなどの福祉体験を行った。地域の「四国医療サービス」の御厚意で車椅子を複数台貸与いただいた。車椅子を押す体験では、少しの段差でも坂道でもうまく進まず大変だということ、目の不自由な人の体験では、見えないことはとても不安なことだということなどを実感していた。講師の二人がとても明るく、様々なことにチャレンジしていることに児童たちは感銘を受け、「自分の体に障がいがあるのではなく、自分の周りに障がいがあるのだ」という話が強く心に残ったようだ。不便なことはあるが、困った時に助けてもらったり生活を工夫したりすることで、できることも多くなると教えてもらい、次への課題設定に意欲を高めた様子であった。学習を進めるにつれて、児童たちは新たな課題をもち、その課題を追究する中で11月には二度目の交流を実現させ、更に有意義な活動へと発展させることができた。

